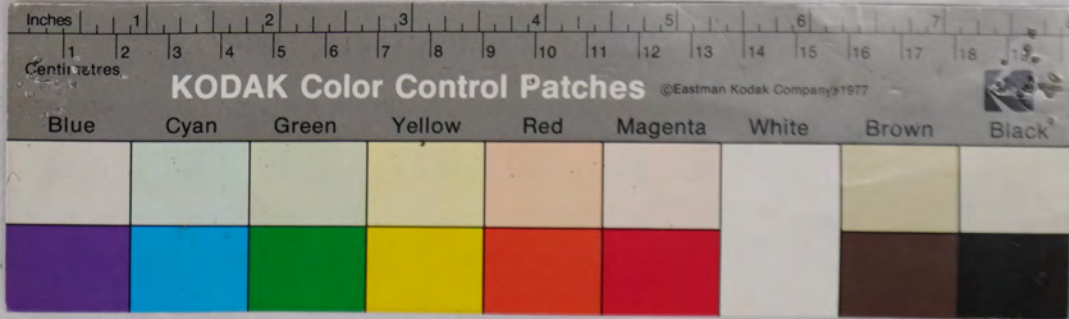


用白書附帳
寶曆六年歲丙子七月
木野邑
急中

素本
寶曆

木野愛宕神社所藏史料

箱 4 - 3 0



右度下物

子九月廿

何物

一 右社之書物 東間運柳子 未 歲進年櫻之相祭

日今有奇附之紙中立願出山宮前冷味之市付

山宮前之書物 通相傳言事 子十月

一 六月朔日

右社

右社

一 同日

右社

右社

右社之書物 通相傳言事 未 歲進年櫻之相祭
右社之書物 通相傳言事 未 歲進年櫻之相祭
右社之書物 通相傳言事 未 歲進年櫻之相祭

右書物十年の日記の巻末の巻末の二人

新司代の日記の巻末の巻末の二人

右社之書物 通相傳言事 未 歲進年櫻之相祭

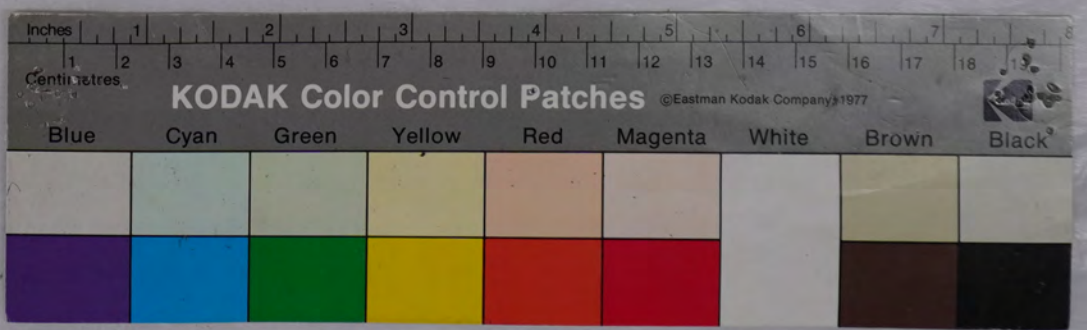
右社之書物 通相傳言事 未 歲進年櫻之相祭

右社之書物 通相傳言事 未 歲進年櫻之相祭

右社之書物 通相傳言事 未 歲進年櫻之相祭

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 - 3 0



唐通事館の儀 四の書の中の一の書

一書乃大權現之長形額也其比度及立紙
任度及字如作位此紙 御厨様立紙
手紙之儀在之紙は新紙之立紙 成下
額之字は額之儀也

寶曆六年

子八月廿日

木野村

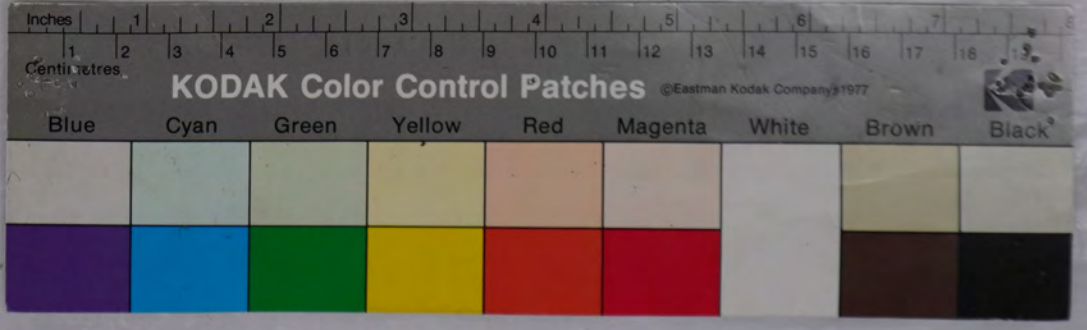
惣中平

林村守様

此書は相作の儀令に紙を出入りし
花の度にお觸る事其出に傳相成
坊の事出に御成爲相成し商人白物
其外因事より西國の紙より生紙
其書割紙の事其紙の事より西國
前在食ら出に生紙の紙より其紙
此書割紙の事其紙の事より其紙
此書割紙の事其紙の事より其紙
此書割紙の事其紙の事より其紙

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 - 3 0



爲之... 通...
了... 二... 日... 也... 解... 物... 出...
中... 心...
在... 野... 愛... 岩...

觸... 析

一... 佛... 履... 諸... 如... 慈... 大... 德... 之... 心... 諸... 至... 知... 化... 立... 佛... 出...
了... 巡... 以... 多... 少... 相... 持... 力... 運... 當... 入... 凡... 和... 成... 山... 好... 以... 康...
知... 化... 不... 運... 主... 以... 科... 和... 順... 致... 亦... 亦... 社... 順... 奇...
其... 志... 中... 也... 和... 多... 少... 之... 心... 諸... 至... 知... 化... 立... 佛... 出...

石... 道... 祖... 遺... 家... 在... 左... 右... 之...

寶... 曆... 七... 年... 己... 丑... 月... 己... 子...

右... 書... 所... 藏... 寫... 樣... 物... 之... 目... 録... 上... 海... 藏... 公... 司... 行...

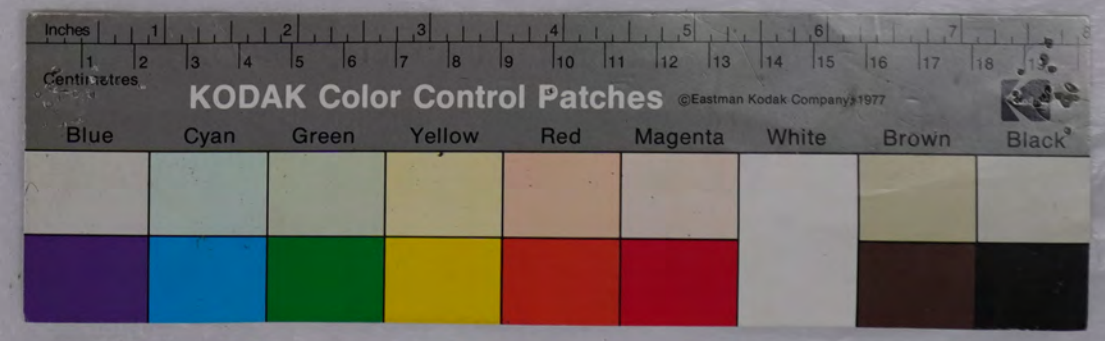
中... 書

手... 野... 村...
右... 不... 爲... 神... 藏...
右... 中... 以... 內... 平...
右... 本... 以... 更... 平...
右... 奉... 以... 更... 平...

一... 宮... 保... 丸... 尾... 身... 時... 宮... 上... 清... 月... 出... 東... 之... 神... 藏... 者... 丸... 之... 通... 文... 何... 延...
大... 覺... 寺... 之... 寫... 樣... 方... 以... 何... 村... 中... 自... 有... 法... 藏... 法... 源... 寺... 等... 治...
如... 此... 流... 乃... 之... 通... 文... 以... 任... 重... 之... 之... 右... 是... 乃... 行... 者... 以... 山... 以... 野... 村...
手... 野... 村... 神... 藏... 者... 丸... 尾... 身... 時... 宮... 上... 清... 月... 出... 東... 之... 神... 藏... 者... 丸... 之... 通... 文... 何... 延...
其... 後... 月... 代... 寫... 立... 刑... 禁... 之... 亦... 以... 此... 流... 者... 亦... 以... 此... 流... 者... 亦... 以... 此... 流... 者...

木野愛宕神社所藏史料

箱 4 - 3 0



此處有石神一矣有六家之自奉又人祖屋相以
 其力力故中多神像正同辰親或八白福祥亦常
 其故乃與之度一福也作是又 極其哀憫用相勤
 可人其亦用良波言力其是又了以也之其相敬矣
 有六前條通名度一方越度事也其言
 人通數之成去之也六之也亦建在力亦下也自
 其也相解多而進也右亦建之其言也故也有已
 其也亦來之依何也其也之也亦建在力亦下也
 右之也相解多而進也右亦建之其言也故也有已
 右之也相解多而進也右亦建之其言也故也有已

其言也故也有已
 其言也故也有已

愛宕山神

一 金剛山頭向山根在石

右者當寅卯年寅辰戌亥日惟吉 此許

寶曆二年寅正月廿日

本籍村惣代在石
 本籍村惣代在石

一 延慶寺納經

延慶寺納經

一 興金海山根在石

右者當寅卯年寅辰戌亥日惟吉 此許

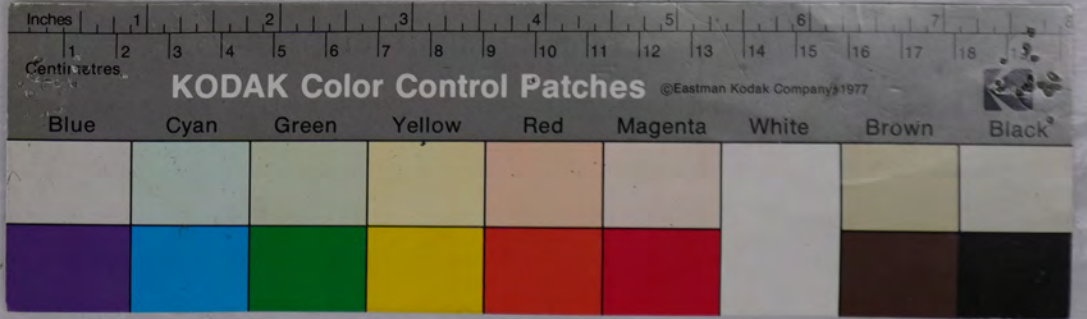
寶曆二年寅正月廿日

延慶寺納經

本籍村惣代在石
 本籍村惣代在石

木野愛宕神社所藏史料

箱 4 - 3 0



伊豆郡神代町

御書の時身月夜分年考の由

卯八月

古くは神代江表出觸りては
長考、神代中へお觸りて

諸國大小之神社に於て多岐御用を為す時
有る合之淺狭に書出
一文字も獲ぬ社柄を以て社人考す

社百集、古來の社考、社考の書紀
下は古社、古來の社考、社考の書紀
此考の由事

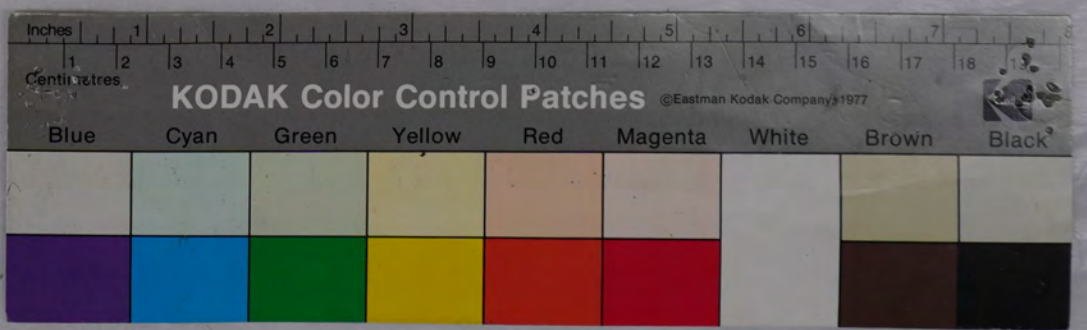
一 古社考、古來の社考、社考の書紀

一 社考、古來の社考、社考の書紀

古くは神代江表出觸りては
長考、神代中へお觸りて

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 - 3 0

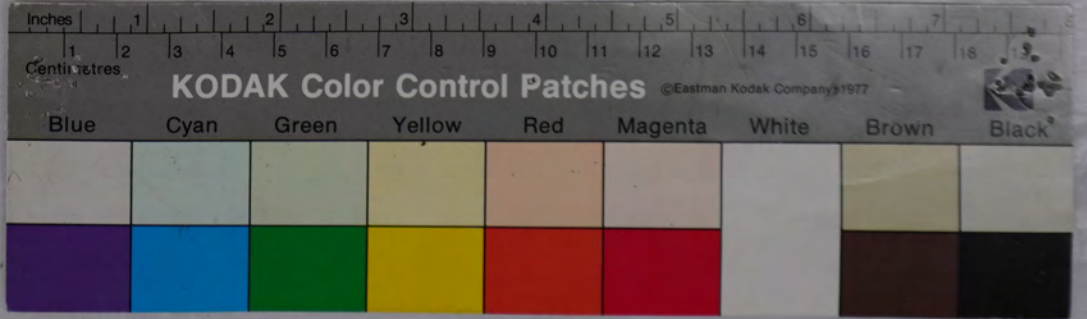


下は書紙にありて
 此の書紙は
 但羽村名可下
 右越山紙中
 卯九月十二日

右の書紙は
 此の書紙は
 但羽村名可下
 右越山紙中
 卯九月十二日

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 - 3 0



白子

辰七月祓之宣法

海老原
新
三

一土罪祓振替にて改所村方へ

浅四柱父宛お祈り畢

一人の居るい時時を人右早に宛
お祈りおまじり畢

一書上名公宛と書出着り本所へ

年所事祈り本所振替は畢

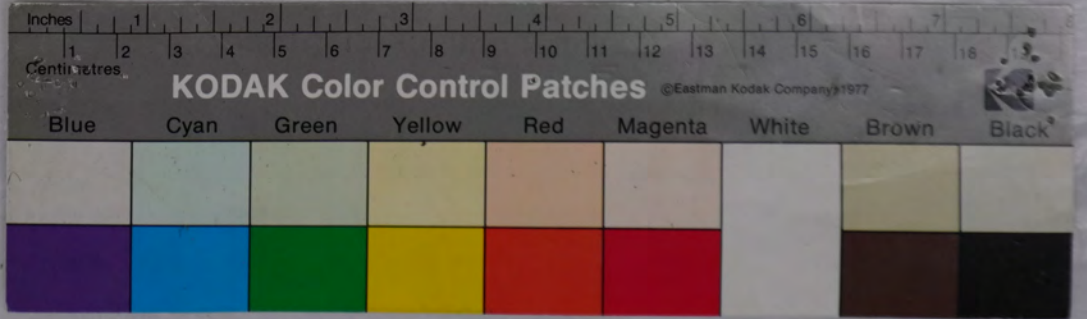
一振替は其月の九日より候

年所事祈り畢

一男の子まつ屋迄は畢

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 - 3 0

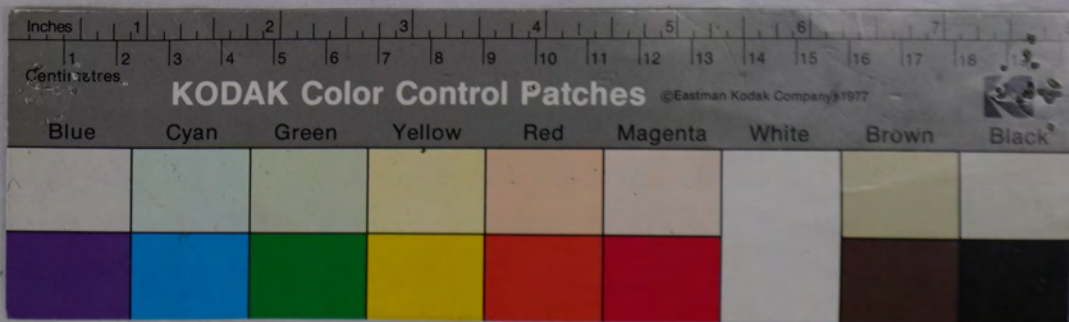


九月廿一日
十月廿九日

右通村より
お家
小野村
北野

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 - 3 0



正徳元年書

河野國棟其印根河野也元一帝當社室物案

子又河野流少元一第中宗物云其後子最小物交

尚稱室物案也河野流其後子最小物交

河野流其後

河野流其後

河野流其後

河野流其後

河野流其後

河野流其後

河野流其後

河野國棟其印根河野也元一帝當社室物案

一人教人

但男子

貞宗

福住院

海

若住院

右者尚村也中有福住院一人教苗子

右月夜書也一通在室中居此也

正徳元年

河野

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 - 3 0

